

—メッセージ—

# 「主客転倒」



**エマオ** 途上の2人の弟子は気付かないままイエス様と道中出会いました。道々イエス様から聖書全体の教えを受けました。弟子たちの心は次第に信仰の世界に入っていました。そして家についたとき2人の弟子はイエス様に「お泊まりください」と言って引き止めました。イエス様が食卓につかれた時です。

「一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かった。」(ルカ 24章 30、31節)

キリストの復活は、主人とお客が入れ替わったときわかった「主客転倒」の出来事です。

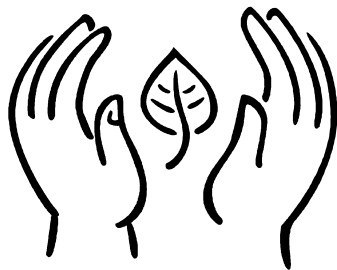
キリストの復活は「主客転倒」の出来事です。キリストの復活に対する信仰も、私たちが心の王座に主を迎え入れて私たちは従うという「主客転倒」です。そして、キリストの復活を信じる私たちの人生にも「主客転倒」は起ります。人生は死によって終わる。これはある面では真理であり事実です。しかし人生は死によって終わらない。永遠のはじまりです。

**数年前**の正月、私はある方から久しぶりに年賀状を頂きました。差出人は以前親しく交わりを持ったことのある兄弟でした。当時彼はお付き合いをしていた彼女と仲良く礼拝に出席していました。2人は洗礼を受けられました。ただお2人は病気であったので市内の病院にお世話になっていました。年賀状には新年のあいさつのもと、「私は市外の病院に転院し未だ退院していません。それどころかガンになってしまいました。お付き合いしていた彼女は数年前ガンで天国に召されました。小林さんにとって今年は幸せな良き年でありますようにお祈りしています」と書いてありました。

**仲の良かった**彼女もガンで召され、今自分もガンであると宣言され1人ぼっちで死に直面している彼のことを思うと胸が痛みました。私はすぐ祈って返事の手紙を書き、彼を訪問しました。ほぼ10年ぶりにお会いした彼は骨と皮、衰弱しきっていましたが、前と同じ優しい表情でもてなしてくれました。彼は突然私を見つめて言いました。「小林さん、死んでも天国に行けるよね」「僕は救われているよね」彼の顔はとて

も真剣でした。私は「もちろん天国に行けるよ」「だって聖書にちゃんと書いてあるよ」「人は心に信じて義と認められ口で告白して救われるのです(ローマ 10 章 10 節)と書いてあるよ」「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです(ヨハネ 11 章 25 節)と書いてあるよ」と言いました。私たちは聖書を読み祈り合いました。私は彼の肩に手を置いてこう祈りました。「天地万物を造られた神様が信仰を強め、この病気を通して知らせて下さる神の恵みと天国への確信を感謝します」祈り終わって彼の顔を見ると彼は目に涙を浮かべていました。そして平安に包まれた表情をしていました。彼はエレベータのところまで私を送ってくれ「ありがとう」と言って握手をしてきました。

それからしばらくたって彼は天国に召されていきました。



**私たち**の人生は何時のときか終わりがきます。死ななければなりません。しかし私たちの人生は死で終わりではありません。キリストの復活は「主客転倒」の出来事です。天と地がひっくり返るような出来事です。イエス・キリストは私たちの受けるべき罪を十字架で負ってください、罪の赦しと復活による永遠のいのちを与えて下さいました。

(牧師 小林 則義)